

全国曹洞宗青年会

SOUSEI

2024.5 VOL.205

特集 令和6年能登半島地震



令和6年能登半島地震



多くの方が新年への抱負と希望を胸に過ごしていた元日、突如として日本列島は悲しみと衝撃に包まれました。能登半島を震源としたM7.6の巨大な地震が、甚大な被害をもたらしました。

この大災害に対し、現地では15団体152名が活動し、数多くの団体・個人が、物資や支援金を被災地に送付するなど、全曹青が把握しているだけでも多くの宗門関係者が支援活動に携わっています。全曹青では、発災直後から連絡を取り合い、1月3日には被災地に駆けつけ活動を行っております。また、曹洞宗石川

県青年会（以下、石川曹青）やシヤンテイ国際ボランティア会（以下、SVA）との連携を強化し、支援物資の呼びかけ、現地での支援活動を検討している加盟曹青会や関係諸団体の調整を行っております。

2か月以上が経過した現在（執筆時）でも断水が続く地域があるなど、半島という地理的要因によって、インフラの復旧が遅れが出ております。仮設住宅も平地が少ない上に、人手不足が重なり建設が遅れ、避難生活の長期化が懸念されています。多くの課題が残されておりますが、全曹青は加盟曹青会・関係団体とともに継続して支援活動に取り組んでまいります。

文／副会長 宮本昌孝



活動スケジュール

曹青会関係

4月1日現在

月	活動日	団体名	活動内容	
1月	7日	福井県曹洞宗青年会	物資搬入、運搬他	
	9日～12日	山形曹洞宗青年会	物資搬入、運搬他	
	15日～16日	曹洞宗静岡県第一宗務所青年会	物資搬入、運搬他	
	18日～20日、29日～2月2日	三重県曹洞宗青年会	物資搬入、運搬、SVA補佐	
2月	30日～2月1日	曹洞宗山梨県青年会	物資搬入、炊き出し他	
	6日～9日	三重県曹洞宗青年会	炊き出し	
	7日～9日	曹洞宗福島県青年会	炊き出し	
	13日～16日、19日～20日	曹洞宗長野県第一青年会	炊き出し	
	14日～15日	曹洞宗埼玉県第二宗務所青年会	寺院支援他	
	20日～22日	曹洞宗長野県第二宗務所青年会	炊き出し	
	21日	宮城県曹洞宗青年会	炊き出し	
	26日～28日	曹洞宗静岡県第一宗務所青年会	寺院支援他	
	3月	4日～5日	大分県曹洞宗青年会	避難所支援
		6日～8日	山口県曹洞宗青年会	寺院支援
6日～8日		広島県曹洞宗青年会	寺院支援	
11日～12日		愛知県第一曹洞宗青年会	炊き出し	
12日～13日		兵庫県第二宗務所青年会	炊き出し	
13日～14日		茨城県曹洞宗青年会	炊き出し	
24日、25日～26日		三重県曹洞宗青年会	雪割草まつり「和太鼓集団 鼓司」演奏、寺院支援	
25日～26日		曹洞宗静岡県第一宗務所青年会	寺院支援	
25日～26日		曹洞宗長野県第二宗務所青年会	寺院支援	
26日～27日	宮城県曹洞宗青年会	炊き出し		

全曹青出向者

月	活動人数	活動内容
1月	12名	物資搬入、状況把握、SVA補佐、避難所支援、現地コーディネート、全曹青拠点準備（永光寺）
2月	10名	炊き出し、寺院支援、祖院宿泊諸準備
3月	4名	炊き出し、雪割草まつり補佐



対談 これまでの活動とこれから

川端孝法 石川曹青会長、全曹青に outward 中の勝田淳玄師に、発災時の状況や、現在に至るまでの経緯、さらには今後の活動についてお話を伺いました。(3月6日取材)

山崎秀典 支援部コーディネーター

(以下、山崎)

発災時の状況を教えてください。

川端会長 (以下、川端)

どこも年賀でお檀家さんが参られていたような状況が多かったと思います。自坊である松山寺ではお参りが一段落というときに、緊急地震速報が鳴り、直後に地震が来ました。今まで経験したことのない長い揺れが続き、尋常ではないと感じました。家族と一緒にしたので皆とテーブルの下に入り、揺れが収まるのを待ちました。

その後、すぐに本堂に行くのと位牌や観音様が倒れ、墓地はかなりの数の墓石がずれたり崩れたりしているような状況でした。お寺の裏の崖は、平成23年に補強工事をしたのですが、一部未工事の箇所が崩れていました。兼務寺院も被害は同じような状況でした。

山崎

宗務所や青年会との連絡は、どのようにされましたか。

川端

宗務所と先行して連絡を取ると、宗務所員もほとんどが被災している状況でした。それでも副所長を中心に、1月6日に金沢市内の教区長、婦人会、青年会と、被害の少なかった金沢市の寺院を中心とした会議があり、宗務所内に対策本部が11日に立ち上がりました。

青年会についても、会員が被災する中で、全曹青の宮本さん、高柳さんが3日には支援物資を持って来県し、私と勝田さんとともに動き出しました。これが起点となりました。対策本部の活動が始まり、青年会として何ができるかを模索していたところ、事務局である松山寺がまず物資の受け入れ先になりました。全曹青で呼びかけていただいていた間もなく、全国から物資が届き、福井曹青さんが7日に水を持ってきて下さり、私の同安居も大量の物資とともに見舞いに来てくれま



した。

物資の受け入れ先になり、それを必要とする箇所に届けておりましたら、石川曹青会員が徐々に参加してくれました。私は運搬の段取り、情報収集と並行して、どこを拠点にするかを模索しました。さしあたり石川県宗務所・災害対策本部である永光寺様を拠点とし、珠洲市や輪島市・總持寺祖院など各所に物資を運搬しました。そこに全国から「お手伝いをさせてもらいたい」というありがたい連絡をいただき、1月半ばには物資運搬を中心とした各青年会さんとの活動に広がっていききました。

まずは宗務所との連携、発災前から宗務所内に災害対策の体制、組織図もありましたから、それに則ってやるということ



ころから、自然発生的に活動につながっていききました。

山崎

地震以前からの組織や役割が効果的に機能したということですね。

川端

そうですね。教区があり、宗務所を中心とした組織、そして、婦人会。それらの連携・協力は重要です。また教区だけではなく、同末寺院とのつながりや、布教師として伺ったお寺、どちらも能登ですが、普段からの関係が大事だと思えます。



山崎

支援活動の広がりについて教えてくださいます。

川端

搬送活動と同時に進んでいた組織づくりにおいて、その幅を広げてくれたのは婦人会だと思います。平成19年の能登地震と違い様々なツールがあり、婦人会でも「Z田グループで情報交換をしてみました。特に珠洲市方面の寺族さんからの「こういう物資がほしい」「炊き出しをしてほしい」という声が次の展開につながりました。

山崎

寺族さん方が避難所、避難された方々と関わっていらっしゃったということなのでしょう。

川端

そうですね。やはり寺族さんはすごいと思えました。寺族さんがいらっしゃったからこそ、こういった展開になったのだと思います。

そういった関係から広がっていききましたが、失敗したこともありましたが、県知事の対策のひとつで、被災地から加賀や富山へ、地区ごとの一斉避難が行われました。これは想定しておらず、依頼があり、調整ののち、いざ物資を持って行くこととしたときは避難のあとで、物資が宙に浮きかけたということがありました。

このときを振り返ると、いただいた情報をもとに、その避難所のリーダー的な立場の方と、直接私がやり取りしなければならなかったと反省しました。それ以降の炊き出しの調整は、情報をいただいたらその場の中心となっていた方とやり取りをするようにしたことで、スムーズに進むようになりました。

宮本昌孝支援部コーディネーター (以下、宮本)

全曹青では発災直後より、出向者の安否確認と情報交換を行いました。新潟、福井の出向者に連絡を取り、最後に石川の勝田さんとやり取りすることができました。これらの情報からかなり大きい被害があり、中長期的な活動となると考え、1日夜には全曹青内でオンラインでの対策会議をしました。

金沢市内も被害はあるが現状は落ち着いているという情報がありましたので、金沢まで物資を届け活用していただく、という経緯で現地に向かうことになりました。

大変な状況下でしたので、川端会長への連絡を悩んでおりましたが、勝田さんが間に入ってくださったおかげで、2日の夕方には直接やり取りができました。改めて行って良かったと言えるのは、川端会長から「全国の曹青会の力をお借りしたい」というお声をいただいたことです。支援部としては、現地の意志に沿うこと

が第一ですから、石川曹青としてのご意志を伺い、しつかりサポートしていかなければ、と強く思いました。

山崎

顔を見て、関係性を構築していくことは、活動の根幹的な部分かもしれないです。こういう際は、どんな活動をしたか、ということが重要ではあるのですが、活動経験のある方こそ、「型」で進めようと思われなかったと感じます。今回の震災に対して、東日本大震災など、これまでの支援部での経験があつて、そのノウハウが活きる部分はあるにせよ、被災された曹青会とのやり取りの中で、一から関係を構築していくことの大切さをお二人のお話から感じます。勝田さんがパイプ



役を担ったと伺いましたが、留意されたことはありましたか。

勝田

震災直後は不安でしたが、同安居や全曹青の方から連絡いただいたり、早々に足を運んで下さったりして、非常に心強く感じました。同時に、石川県内の状況、情報の集約もできていなかった中で悩むこともありました。ほとんどの人が同じ方向を向いていても、それぞれ思いがあつて、中には来て欲しくない人がいるかもしれない、そんなことをよく考えました。今は使命感のようなものがあり、石川曹青としても頑張っております。

また私は石川曹青の会計をしており、たくさんの方から支援金を頂戴しました。本当にありがたいことですが、正直、驚きが大きかったです。どのように使っていくことが、この支援金の本当の意味を成すのか、ということも考えさせられました。

川端

本当にありがたいことです。現在は支援物資や青年会員が被災地に入る補助、ヘルメットや軍手など、活動に使用する備品購入に充てさせていただいております。これからも持続的な活動ができるよう、勝田会計や執行部で考えていきます。

宮本

永光寺様に加え、總持寺祖院も活動の拠点となっています。拠点を構築していく経緯を教えてください。

川端

平成19年の能登地震時にも、ボランティアの宿泊先として永光寺様が開放されました。1月中旬から宿泊先の課題が出てきました。検討の中で、宗務所長でもある屋敷住職が「いくらでも協力する」とおっしゃって下さり、実現しました。總持寺祖院でも宿泊が可能となり、門前でも断水が徐々に解消されています。まだ道路状況が万全とはいきませんが、少しずつ珠洲市や輪島市のさらに奥にも活動が広がっていくよう、善処したいです。

山崎

今後について教えてください。

川端

17年前は、行茶活動が主でしたが、目前で行われている足湯ボランティアも好評です。その時に応じて、どのような活動ができるか、という視点を持ちながら、会員に呼びかけて、私たちにできる継続的な活動をしていきたいです。関係が深まった婦人会などとの連携も考えています。



勝田

川端会長もおっしゃったように、可能なことをやっていきたい、という想いが強いです。被災された寺院へ足を運んで活動したいです。また料理はあまり得意ではないですが、これを機に誰かの助けとなるのであれば、炊き出し活動に飛び込んで行きたいと思っております。

宮本

要望を引き出せることも重要だと考えております。支援活動で感じたことは能登の方の我慢強さです。大変な状況でも「もう大丈夫だよ」と言われます。でもお手伝いできることがあると思うので、押し付けるのではなく、こちらがそれに気づける関係を築き、それを発信していくことが課題です。東日本大震災の際、

県外の人が愚痴等を言いやすい方もおられる、ということを教わりました。SVAでも行茶などを検討されているということなので、活動の体制が整いましたら、加盟曹青会に呼び掛けをして、力を合わせていきたいと思っております。

勝田

各都道府県から多くの青年会や団体の方に来ていただき、重ねて感謝しております。復興まで先が見えず、支援活動を継続していくことが大切だと思います。恐縮なお願いではありますが、これからも来ていただくと非常にありがたいです。

清泉雄太支援部事務局長

発災直後から、心配するお声、問合せ、援助のお申し出をたくさんいただいています。總持寺祖院、永光寺様、大乘寺様といった宗門に縁深い土地を震源地とした地震です。全曹青としても、總持寺祖院を中心にここ何年も活動をともにさせていただき、会員も何度も足を運んだ場所ですので、皆様の想いを改めて感じます。

引き続きコーディネートを中心に活動していきたいと考えております。全国からのお声が多いことは大変ありがたいですが、それが直接現地や活動されている方々にいくことは負担にもなりえますので、そこは私たちが窓口として担える部分だと思えます。宗務庁のボランティア



保険を支援部でも取りまとめております。宗務庁や石川県宗務所・青年会、SVAなど関係各所とこれからも密に情報共有をしながら、活動を担っていただけるのは幸いです。

宮本

お二人とも被災者でありながら、支援活動に加え調整もしていただいております。支援部内でも疲れなどがないか心配しております。

勝田

全然疲れていない、と言えればよいですが、疲れは確かにあります。地元青年会、全曹青はじめ、それ以外のことを考えることもありました。ただこのお役をいただいているときに発災したこと。これは私がやるべきことなのだと思うっておりますので、弱音を吐かず、役を務めております。

川端

私も「疲れてないか」と皆さんから言われています。自分では心配していただいているほどでもないと感じていて、自分の健康状態に対して鈍感なのかもしれません。ただ岡らずも、この青年会会長というお役を引き受けさせていただくにあたりまして、多様性が大切なのだろうと考えておりました。そして会長は何かあったときにはまず動く、ということでしょうか。多様性を活かすためには、自



川端会長と勝田師

分のことをきちんと終わらせておかなければいけないと強く思いました。

今回のお話から、「おのずから」広がっていく活動であったことが窺えます。お二人の「日常」や、能登地方の方々が長年培われてきたものがあつたからこそ、成り立っているように感じます。

ボランティアセンターが立ち上がるなど、ボランティア活動もより広がっております。今後も持続的な活動となるよう、力を注いでいきたい、そんな想いを深める機会となりました。

取材／副会長 山崎秀典
副会長 宮本昌孝
災害復興支援部 事務局長 清泉雄太

災害復興支援活動全国研修会 関東管区



める前提として、地元僧侶が要配慮者となりえる方を事前に把握し、専門家がスムーズに活動できるように備える重要性をお示しいただきました。

今回の関東管区が能登半島地震発災後、初めての研修会となりました。現地での活動する際の正しい知識を学び、災害復興支援へ一歩を踏み出すきっかけとなる研修会となりました。

文／広報委員長 宮本貴心

令和6年3月27日、神奈川県横浜市大林寺様で開催し、47人が参加しました。講師には能登半島地震の被災地でも活動をされている、川島浩義氏（NPO法人災害救援レスキューアシスト）をお招きしました。

前半は能登での炊き出しの経験談や情報交換を交えながら、5品目の炊き出し実演を行いました。後半は川島氏より座学で「受援力」についてのお話があり、現地で活動する際に被災者の家族構成などの情報が大切であるため、自治会長や寺院と打ち合わせをすること。救助を求



禅のつどい オンライン坐禅会「穩坐」



令和6年2月25日、オンライン坐禅会「穩坐」を開催しました。前期まで教化委員会で行っていたオンライン坐禅会「おうちで坐禅してみよう」がパワーアップして復活しました。初回は23人の方に参加申いただきました。

オンライン坐禅会「穩坐」は、全曹青公式ホームページ『般若』や各SNSより参加をお申込みいただけるのですが、SNSコメントなどからも様々なお問い合わせをいただきました。「足が悪くて坐禅ができるのか?」「今回は都合が悪けれど、次回開催があるならぜひ参加したい」といった積極的なコメントが多



い印象でした。オンライン坐禅会「穩坐」が日曜日の夜に開催される理由として、「明日から仕事や学校で少し心が沈んでしまうこともあるかもしれないけど、少しの時間坐ってみて、心を鎮めて月曜日を迎えてほしい」と森井宗淳実行委員長は述べました。

オンライン坐禅会「穩坐」は、毎月末日の日曜日の夜に継続的に開催していく予定です。

文／広報副委員長 信行一宏



災害復興支援活動 全国研修会

災害復興支援活動全国研修会を全国9管区で行います。私自身も炊き出し研修は今回が初めての経験となりますが、この研修を通して皆様と共に学び、今後の活動にも活かしていきたいと思えます。災害復興支援に対する最初の一步となる研修を目指してまいりますので、災害復興支援の経験がない方もぜひご参加ください。

●担当

委員／神野元秀（曹洞宗岐阜県青年会）

創立50周年記念式典

創立50周年記念式典は、全曹青50年の結集の場となります。諸先輩方へ感謝の意を表すとともに、原点に立ち返り、今後の青年会活動の未来へ繋げるものにしたと考えております。

歴史の重みを変え、創立から半世紀の節目に相応しい式典の開催に向け、一丸となり進めてまいります。

●担当

委員／高田大航（秋田県曹洞宗青年会）

兩大本山報恩拝登

兩大本山拝登事業は全曹青の50周年という節目に報恩を捧げる行事です。自身や社会、世界情勢に改めて目を向け、今現在そして未来を僧侶としてどう生きるか、一人一人の誓いの場としたいと考えております。私自身、一仏兩祖の教えを肌で感じながら、青年僧侶として上山させていただくことの意味をよく考えて臨みたいと考えております。

●担当

副委員長／川浦良允

（愛知県第一曹洞宗青年会）

記念誌『LOG』

記念誌『LOG』は、全曹青の半世紀に亘る歴史を網羅する記念誌です。基本的に41歳までの会員で構成される当会において、50年という年月には、会員の年齢以上の歴史があります。諸先輩方が悩み挑戦し続けたこの歴史が、今後も移り変わる青年僧侶にとって活動の原動力となる誌面を目指し、鋭意制作してまいります。

●担当

副委員長／菅悠生（広島県曹洞宗青年会）

委員／長岡宏宗（広島県曹洞宗青年会）

禅のじゅう 自然に親しむ 「ZEN ASOBI」

禅喫茶「RYUREI」、オンライン坐禅会「穩坐」など周年事業の数ある「禅のじゅう」の1つとして、自然の中で楽しく禅を学ぶ1泊2日のイベントを企画中です。

参加者は日常を平穩に生きる手懸りを、携わる我々は布教教化の可能性を探る良い機会になればと考えております。参加者が禅や仏教を身近に感じてくださるよう、自分達も楽しみながら企画運営してまいります。

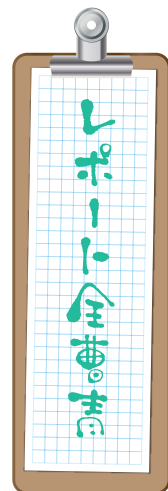
●担当

委員／小泉道隆（福井県曹洞宗青年会）

委員／新川泰玄

（北海道第三宗務所青年会）





韓国・曹溪宗僧侶との 交流会

令和5年11月8日、国際委員会は韓国・曹溪宗の僧侶の方々と交流会を行いました。

今期より全曹青へ出向している私にとって、今回が国際委員として初めての海外僧侶の方々と交流となりました。今までに海外僧侶の方やその文化について触れ合う機会がほとんど無かった私は、韓国僧侶の方々と交流はとても興味深く、新鮮に感じました。仏教の話はもちろん、お互いの社会や文化についても話をしましたが、その中で「韓国の若者たちは、将来お金持ちにならないといけないとか、良い職業に就かないといけないという感情に縛られて、それが個人の重いストレスになってしまっている」と仰っていました。しかし、その点に対して「誰しもが努力さえすればそれだけでちゃんと生きていくことができます、そういった力を一人一人が実は秘めている。自分自身を愛して大切にすることで自己肯定感を高めることができ、そうすることによって他人にも優しい気持ちで接することができるはずである」また「私たちはそういったことを伝えていかなければいけない」と仰っていたのが

印象的でした。実際に対面し、そして出てくる言葉には、なんの混じり気もない素直さや熱心さ、一生懸命さを感じ、とても興味深いものでした。

今回の交流会では韓国社会の現状が知れただけでなく、韓国僧侶の方々は社会をよく俯瞰していて、それをしっかりとと言語化していることがわかりました。そしてこれから取り組まなければいけない点なども明確になっていて、僧侶としての姿勢を知ることができました。様々な視点になってみることで大切さに気付かされた、有意義なひとときとなりました。

文／国際委員 伊藤孝彦



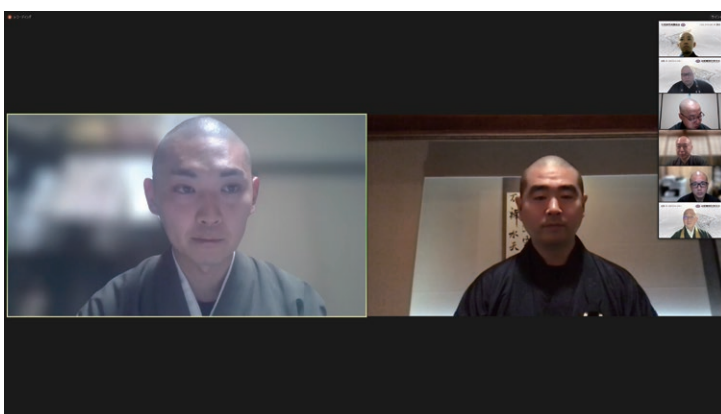
人権学習講座 開催報告

令和5年11月24日に、人権学習講座「悩めるお坊さん」～人間のセクシュアリティについて～をオンラインで開催し、約40人の皆様にご参加いただきました。講師には曹洞宗人権擁護推進本部職員の本多清寛師をお迎えしました。

新宿2丁目のゲイバーで勤務経験のある本多師ならではの切り口で、LGBTQ+のテーマを中心に、現代ならではの「人権問題についてご講義をいただきました。お話の中で非常に印象的だったのは、「そもそも人はだれかを傷つけて生きてるので、なにかあったときに『ごめんなさい』と言えるコミュニケーションが、セクシュアリティの問題のみに関わらず大事なこと」とまとめられたことです。昨今の人権問題は非常に複雑化しているといえますが、間違ったら謝れる関係性というのは、非常にシンプルかつ、有効な考え方だということが改めて認識できました。

グループセッションも行われ、参加者自身の胸のうちにあるモヤモヤを共有することで、いっしょに悩み、考えることの重要性に気付かされました。「悩む」という行為は、どちらかといえばネガティブな行為のように思えますが、そのモヤモヤを自覚することが、人権について考えるためのはじめの一步になると感じました。

文／広報副委員長 信行一宏



寺院のための情報発信支援講座 開催報告

「寺院のための情報発信支援講座」Canvaで伝わるデザインを学ぼう〜が令和6年1月24日と3月6日に前半・後半の2部構成で開催されました。講師にはCanva公式キャンパサダーの倉田ともか氏をお迎えして、Canvaの使い方の方にとどまらず、「伝わるデザイン」についてご講義いただきました。

前半の部では、Canvaの基本的な使い方とデザインの基礎のレクチャーが行



寺院におすすめの理由1

寺院の広報に使える
あらゆるデザインが作れる



われました。Canvaは基本無料で多岐に渡るデザインのテンプレートが使用でき、専門的なデザインのスキルや知識がなくても、簡単にチラシなどの頒布物が作成できる大きな特徴があります。倉田氏は講義の中で、実際にCanvaのデモンストレーションを行い、一から坐禅会のチラシの作成を行いました。また、初心者向けのテクニックとして、コントラストの使い分けや、デザインでよく使う装飾やあしらいなど、ちょっとした工夫でデザインがよくなるコツを伝授していただきました。また、AIによる画像やテキストの生成機能や画像編集機能など、Canvaに搭載されている便利な機能もご紹介いただきました。

後半の部では、実際に参加者がCanvaで作成した坐禅会のチラシの公開添削を行っていただきました。提出していただいた坐禅会のチラシは、前半の部でのメッセージをうまく取り入れ、素人目にはどれもよくできているように見えました。しかし、倉田氏の添削が入るとより一層良いものになり、改めて「伝わるデザイン」の威力を実感することができました。また、中級者向けのテクニックとして、色やフォントの選定方法、掲載する文字情報に強弱をつけることなどがあげられました。



Canvaのテクニックだけでなく、普段のデザイン作成にも活用できる技術や情報をお伝えいただきました。

思いや情報を正しく伝えるということ、現代社会においてとても重要なことと言えるでしょう。寺院運営においても、檀信徒向けになんらかの告知をすることは避けて通ることはできません。今回の講座をより有効的な発信にお役立ていただければと思います。

文／広報副委員長 信行一宏

キャンバ Canva とは？

オンラインリア発の総合的なデザインアプリケーションで、インターネットが使用できる環境であれば、パソコン・スマートフォン・タブレットなどデバイス問わず使用することができます。

一般的なチラシはもちろんのこと、名刺やスライド資料、簡単な動画などを豊富なテンプレートを用いて作成可能です。また、共同編集機能も備えており、チームでのデザイン制作をすることもできます。一部有料の機能もあるものの、基本的には無料で使用できるサービスです。

講師プロフィール



倉田ともか氏

デザイナーひと筋20年。WEBから紙媒体までデザイン制作を手掛ける傍ら、Canva公式クリエイターとしてCanva内のテンプレートをデザイン制作。Canvaのアンバサダー、通称「キャンパサダー」に就任し、Canvaの公式講師としてセミナー登壇。

ムック本「伝わるデザイン（宝島社）」監修。

国際研修会 開催報告



令和6年2月7日、国際研修会「僧侶の『国際活動』とは〜これからのグローバル社会を生きる僧侶のために〜」をオンラインで開催し、約50人の参加がありました。国際活動の最前線におられる3人のお話を伺い、「国際布教」「国際ボランティア」「国際交流」というそれぞれ視点からこれまでの活動を振り返ると共に、僧侶の国際活動について考えるべく開催されました。

研修会は3部構成で行われ、第1部は

南原一貴師に「国際布教の歴史と海外寺院の活動について」と題し講演いただきました。1903年にハワイとペルーから始まった曹洞宗における国際布教の歴史、サンフランシスコにある日系寺院・桑港寺、禅センター・グリーンガルチファーム蒼龍寺についてお話をいただきました。実際に行われている年分行事や食生活についてなど、現地での活動経験がなければわからない海外寺院での生活を詳細にお伝えいただきました。

第2部は山本英里氏に「僧侶と共に活動する国際ボランティアについて」と題し講演いただきました。図書活動（母国語で書かれた絵本出版や読み聞かせ）を中心とした教育・文化支援活動を行っているボランティアの活動についてお話があり、伝統文化や価値観に根差した地域共同体を大切にしていくことの重要性を述べられました。そして、海外の現場では宗教や信仰に日常的に触れる機会が多くあり、活動を行っていく際には宗教を問わずそれを理解していくことは不可欠であるとお話しになりました。

第3部では南原師、山本氏にもご登壇いただき、全曹青顧問・村山博雅師（WFBY世界仏教徒青年連盟会長）の3人でパネルディスカッションを行いました。異文化への相互理解、菩薩行の実践、



そして国際活動が日々の布教につながることをお示しいただきました。

コロナ禍を経て日々拡大していくグローバル社会を迎える中、私たち僧侶が日々できることを模索し勤めていくことの重要さと、僧侶による国際活動の重要性を改めて考えることのできる貴重なものとなりました。

文／広報委員長 宮本貴心



講師プロフィール

南原一貴師 (写真右)

曹洞宗総合研究センター常任研究員

山本英里氏 (写真中央)

公益社団法人ボランティア国際ボランティア会 (SVA) 事務局長
アフガニスタン事務所所長

アユタヤ参禅布教研修会

参加報告

開催場所のタイ国ではコロナ禍前の2019年に続き、2度目の参禅研修会として令和5年11月24日～26日の3日間でタイ国アユタヤ県にあるタイ国仏教青年会アユタヤ・センターで開催されました。この行事はタイ国仏教青年会(YBAT)が主催し、世界仏教徒青年連盟(WFBY)協力のもと催されました。参加者は

タイ国仏教青年会、バンコク仏教青年会、バンコク大学をはじめ、近隣都市から参加した一般の方を含め50人ものご参加をいただきました。前回開催地の首都バンコクから離れ、田園の広がるアユタヤでの開催でしたが、非常に多くの参加をいただきました。

日本から講師として村山博雅顧問と私が出向し、3日間を通し、僧堂安居を参考にした内容でスケジュールを組み、講義、坐禅、写経、飯台指導を行いました。

この度の参加者の多くはヴィパッサナー瞑想に慣れ親しんだ、上座部仏教の瞑想を熟知する方々でした。意欲的な方々が多く、休憩時間が食事後のわずかな時間しかないというタイトスケジュールの中でも、空き時間には多くの方が質問に來られ、タイにおける禅への関心の高さを改めて感じました。そのことも鑑み、個人の質問を全員で共有するために、プログラム中にできるだけ質疑応答の時間を設けました。参加者の多くはタイ出身者でしたが、中には在タイ日本人やヨーロッパ出身者、タイ人僧侶などいろいろとしゃいました。それぞれの属する仏教文化の違いがあっても、共通して禅に対する積極的な学習意欲を持っていることに、大きな感銘を受けました。閉会式後には参加者から「3日間では短い。次



回は5日間で来てほしい」「タイにいながら禅を学ぶにはどのような方法があるのか」「次回の開催はいつ予定しているのか」など、多くの要望や質問をいただいたことから、日本の「禅」とりわけ曹洞禅への関心の高さと、本プログラムの開催に大変大きな意義があったことを再確認することができました。

文／全曹青副会長

WFBY世界仏教徒青年連盟

事務局次長 高柳龍哉





災害復興支援部 ニュースレター

東日本大震災慰霊復興祈願法要 成林寺

令和6年3月10日、福島県伊達市成林寺様の納経塔前において、東日本大震災慰霊・復興祈願法要を厳修いたしました。また今年も、全国で



起きた自然災害に対しても想いを向けるとともに、特に令和6年能登半島地震への追悼、復興への祈りも込められました。

法要の導師は全曹青会長・田ノ口太悟師、全日本仏教青年会理事長・新井順證師、世界仏教徒青年連盟会長・村山博雅師の3人が務められました。法要の中では、全国から復興祈願の想いを込めて送り届けられた5000枚を超える写経用紙を奉納しました。現地に参集した僧侶だけでなく、想いを同じくする全国のオンライン参加者が随喜する中、14時

30分より行事を開始し、14時46分に合わせて黙祷が捧げられました。

翌11日も同時刻に正當慰霊法要が田ノ口太悟師を導師に厳修されました。法要後にはご随喜された全曹青第19期会長・松岡広也老師より、震災当時の想いや、未来への課題についてお話しいただきました。

全曹青公式 YouTube チャンネルでは、10日法要のライブ配信動画をご覧いただけます。一日でも早い被災地の復興をお祈りいたします。

文／広報委員 佐藤孝成

活動の灯 自照院

3月11日、宮城県角田市の自照院様にある「活動の灯」の前で、東日本大震災慰霊法要が行われました。「活動の灯」は東日本大震災発災当時、東北の太平洋側で支援活動を行う上で拠点となった場所に建立されています。13年目となる今年は、僧侶の他に25人の梅花講師の皆様にもご参加いただき、読経と梅花流詠讃歌を奉詠いたしました。

導師を務めた山崎秀典副会長は東日本大震災において支援活動の拠点となった自照院様に対して、改めて感謝の意を述べるとともに、能登地震をはじめとする他の大規模災害においても、今後も支援を続けて行く決意を述べられました。

文／広報副委員長 信行一宏



活動の灯 龍泉寺

3月11日、岩手県山田町龍泉寺様にある「活動の灯」の前で、宮本昌孝副会長導師により、岩手県曹洞宗青年会の皆様にも随喜いただき法要を勤めました。

14時頃から講師さんによる詠讃歌奉詠が始まり、龍泉寺ご住職の石ヶ森桂山老師導師により慰霊法要が勤められました。法要後は石ヶ森老師指導のもと坐禅が行われ、14時46分には皆で黙禱を捧げました。

慰霊法要後、石ヶ森老師は「能登地震で被害に遭われた方に思いを寄せると共に、日々感謝を忘れず、ひとつひとつを大事にしていきましょ」とお話しになりました。

文／広報委員長 宮本貴心



宮城県曹洞宗青年会

東日本大震災から13年が経過いたしました。石巻市大川地区の、震災前まで人々の営みが確かにあったその道のりを、命の尊さを感じながら会員24人随喜のもと行脚いたしました。

旧大川小学校震災遺構では、地震発生時刻の14時46分に黙禱を捧げ、地元僧侶の皆様と共に慰霊法要をお勤めいたしました。遺族会代表の方が「日常が戻れば戻るほど、どうしてここにあの子が居ないのかという思いになる。心の復興はまだまだです。」とお話しされておられました。

あの日起きたことをそれぞれの胸に刻み、今を生きる私たちが共に手を取り合っていく、これから先も大切ないのちを守っていき、その想いを今後も繋いでまいります。

文／宮城県曹洞宗青年会会長 千田祥幹



曹洞宗福島県青年会

東日本大震災発災より、13年が経ちました。3月11日、曹洞宗福島県青年会では、被災地である相馬市、南相馬市にある4か所の震災慰霊碑前にて供養法要を勤めました。県内各地より36人の青年会員有志が参集し、慰霊地域の住職であるOB会員や、会長、前会長がそれぞれ導師を務めました。当日は晴天に恵まれ、慰霊碑に刻まれた犠牲者のご遺族や、現地にお住まいの皆様が参列され、焼香を賜りました。中にはこの供養の為に遠方から来られた方もおられました。

この活動は、2015年から毎年実施しております。13回忌は経過しましたが、亡き方への供養の思いは変わりません。これからも継続して慰霊碑供養を続け、少しでも現地の方々への心の安息になればと願っております。

文／曹洞宗福島県青年会会長 佐藤泰典



南相馬市烏埼地区慰霊碑前での法要



「雪割草まつり」参加報告

令和6年3月24日に輪島市門前町で開催された「雪割草まつり」に参加いたしました。雪割草まつりとは、雪割草が開花を迎える3月末に開催される門前町最大の行事です。今年度は能登半島地震の影響で行政主体での開催が難しいため、これまで門前の町づくりを行ってきた「禅の里づくり推進協議会・地域まちづくり部会」が主体となり、門前の復興の足



掛かりとして開催されました。

当日は門前東小学校の体育館を会場に、ステージイベントや子ども縁日、屋外には屋台が設けられました。その中で三重県曹洞宗青年会和太鼓集団「鼓司」による奉納演奏が行われました。「悟りの岸へ雲のゆくまま水の流るるままに」と題した30分にわたる迫力のある演奏は、多くの来場者の方々に魅了されました。

全曹青は発災当初より、石川曹青やSVAと協働し、總持寺祖院や門前町を中心に活動してまいりました。今後も被災地の皆様に寄り添いながら、復興支援活動を継続してまいります。

文／広報委員長 宮本貴心



彩青会30周年記念大会
「僧侶に求められるもの」
参加報告



令和6年2月22日、曹洞宗埼玉県第二宗務所青年会（以下、彩青会）30周年記念大会に参加いたしました。

開式にあたり能登半島地震で犠牲とされた方々への黙祷で記念大会は始まりました。その後、彩青会会長の来馬司龍師が来場された方々や彩青会創立30年に際し、その歴史に携わったすべての方々への感謝の言葉を述べられました。

記念シンポジウムの主題にも掲げられた「これまでの30年 これからの30年」この30年を地球環境・世界情勢の変化、日本でも自然災害や世界を震撼させる事件があり、近年ではテクノロジーの進歩によって生活はより便利にスピーディーなものへ変化してきたと彩青会が創立から



歩んできた時間を振り返りました。また近年、私たち僧侶も無視することができないカルト宗教の問題が世間を騒がせております。記念シンポジウムでは「カルトに日本仏教はどう向き合うか」について宗教学者の正木晃先生、WFBY世界仏教徒青年連盟会長であり全曹青顧問の村山博雅師、曹源寺ご住職中村瑞峰老師が登壇され、講師の方々それぞれのご視点からこれからの30年を担う青年僧侶へご提言をいただきました。

来馬彩青会会長の言葉にもあったように、一仏兩祖の教えを依り所としてその時代に即した学びを続け実践してゆくことの重要性を感じる講演でした。ただただご提言を胸に刻み、これからの時代に求められる青年僧侶の存在意義をこの日集った諸師と共に改めて深く考えるものとなりました。

文／国際委員 高倉秀哲





委員長 佐藤大起

宮崎県曹洞宗青年会

第25期がスタートし、自坊だけではできない様々な経験を積むことができた1年間でした。今後も様々な企画を通して多くの方が曹洞宗に親しんでいただけるよう、また自らも大きく成長できるよう、残り1年間も大切に精一杯務めてまいります。全曹青創立50周年の節目に携わることができたこのご縁に深く感謝申し上げます。



副委員長 諏訪弘史

いずも曹洞宗青年会

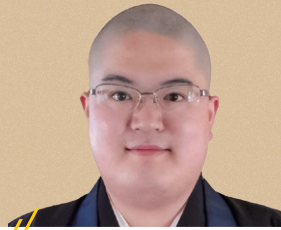
全曹青では、僧侶のリアルに寄り添い、僧侶に今必要とされていることを学ぶ機会がたくさん提供されています。その一員として活動できていることに感謝をし、この学ぶ機会を大いに活用し、これからの寺院活動や布教活動につなげていくために精進してまいります。



委員 奥村 宥史

北海道第二宗務所青年会

ご縁を頂戴し全曹青に参加させていただいております。同安居や同教区といったものから離れて頒布ブースにいると、まったくもって新鮮な気持ちになります。感謝の気持ちと共に、任にあたって他に譲り難しの精神で務めさせていただきます。



委員 阿部 泰宗

曹洞宗福島県青年会

初出向となった第25期は50周年という節目でもあり感慨深いものです。総合企画委員として各地の研修会や婦人会等に赴くことができ、ブースを出店する中で人と人が触れ合えるその温かさを実感しております。これからも様々な経験を通して、自分自身にできることを精一杯務めていきたいと思っております。



委員 久保 尚之

新潟県曹洞宗青年会

気付けば3期目の出向になりました。全曹青を通して多くのご縁をいただき感謝するばかりです。今期は花祭りセットに携わらせていただき、多くの方から塗り絵が届くのを楽しみに日々精進してまいります。もし良ければご購入いただけると幸いです。



委員 石村 裕憲

新潟県曹洞宗青年会

最初は不安の中始まった全曹青の活動ですが、委員会をはじめ、所属されている皆様やご意見いただける皆様のおかげであつという間に過ぎた1年でした。これからもより良いものを作り上げ、活動に貢献していけたらと考えております。



委員 山本 光輝

曹洞宗静岡第一宗務所青年会

初めて全曹青に出向し、総合企画委員として他県の方々と多くのことを学ばせていただけてとても有難いです。新型コロナウイルスも少しずつ落ち着いてきたことで他県での活動もできるようになってきました。まだ分からないことも多いですが精一杯務めさせていただきます。



アドバイザー 三吉 泰之

山形曹洞宗青年会

全曹青に参加させていただき、いろいろな出会いや経験に感謝しています。時代の変化に順応しつつ、今だからできること、変わらなければいけないもの変わってはいけないものを見極め、一つ一つの出会いや経験を大切に、一人一人の考えを尊重し柔軟な考えを持って活動していきたいと思っております。

全国曹洞宗青年会の活動にご理解とご協力を賜り、衷心より御礼申し上げます。
お預かりした賛助費は活動の大きな支えとして活用させていただくとともに、
またボランティア基金として災害復興支援活動に充てさせていただきます。

全国曹洞宗青年会創立50周年 協賛金芳名録

2024年1月1日～2024年3月31日取扱い分

◆島根県
172 總覺寺 様

◆島根県
206 十満寺 様

創立50周年記念事業 祝賀芳名録

災害復興支援活動全国研修会（3/27関東管区）

曹洞宗神奈川県第1宗務所青年会 様
群馬県曹洞宗青年会 様
関東管区理事 宇田川宗美 様

曹洞宗神奈川県第2宗務所青年同志会会長 伊藤卓矢 様
曹洞宗神奈川県第2宗務所青年同志会 石澤道信 様

頂戴いたしました浄財は、全国曹洞宗青年会創立50周年記念事業の
円成のために活用させていただきます。衷心より御礼申し上げます。

特製金襴・本場米沢織 / スーパールック・シルキーワン製造元

・両大本山御用達

筭井筒屋

蓮から化繊まで自社開発にて行う品質管理

山形本店 [9時-18時] ☎ 0120-122-894 山形県山形市本町2-4-10
横浜鶴見店 [10時-17時] ☎ 0120-401-565 神奈川県横浜市鶴見区寺谷1-7-1 1F
九州営業所 佐賀県鳥栖市本島橋町615-1

<https://idutsuya.co.jp>

京法衣・京仏具
華頂庵 安藤 藤

京都本店 〒605-0081 京都市東山区古門前通花見小路東入 TEL 0120-29-8161 FAX 075-525-2359
東京店 〒105-0014 東京都港区芝2丁目15-2 TEL 0120-3232-09 FAX 03-3454-3251
福岡店 〒812-0036 福岡市博多区上呉服町12-7 TEL 0120-2143-22 FAX 092-291-2144

- 寺院荘厳具全般 製作及び修理
- 特注品の製作もお受けいたします
- 各種記念品、贈答品等 お受けいたします
- 在家用仏具、仏壇 豊富に取り揃えております

寺院荘厳具製作・修理、位牌、仏壇

(株)お仏壇のはしもと

〒914-0814 福井県敦賀市木崎19-15-3
TEL.0770-22-0945
FAX.0770-22-2421
E-mail m-hashimoto@rm.rcn.ne.jp



故人のご冥福をお祈りいたします

各種法要 承ります
奥出雲会館 内田工務店葬祭部
仁多郡奥出雲町三成 1618-1 Tel.0854-54-1949

賛助費浄納芳名簿

2024年1月1日～2024年3月31日取扱い分

- ◆東京都
173 江岸寺 様
175 泰宗寺 様
333 雲慶院 様
- ◆神奈川県2
10 隨流院 様
- ◆群馬県
194 善宗寺 様
- ◆栃木県
51 豊栖院 様
57 満福寺 様
87 慈眼寺 様
167 興福寺 様
175 本光寺 様
- ◆茨城県
2 天徳寺 様
160 定林寺 様
- ◆千葉県
2 宗胤寺 様
22 廣壽寺 様
- ◆山梨県
29 西光寺 様
45 永昌院 様
162 法久寺 様
280 円通院 様
- ◆静岡県1
7 元長寺 様
464 正泉寺 様
- ◆静岡県2
325 海藏寺 様
332 龍雲寺 様
- ◆静岡県3
644 利生寺 様
1314 西光寺 様
- ◆静岡県4
1140 竹林寺 様
- ◆愛知県1
173 神藏寺 様
182 観昌寺 様
229 寶泉寺 様
309 常宿寺 様
313 長松寺 様
605 天徳寺 様
629 神龍寺 様
635 水澤寺 様
653 正壽寺 様
824 東昌寺 様
1229 玉林寺 様
- ◆愛知県3
379 泉柳寺 様
498 神後院 様
557 楞嚴寺 様
- ◆岐阜県
133 福壽寺 様
148 圓頂寺 様
- ◆三重県1
7 海蔵寺 様
83 涼泉寺 様
91 二桂寺 様
276 地藏院 様
- ◆三重県2
408 東正寺 様
- ◆京都府
91 福泉寺 様
236 善光寺 様
389 萬福寺 様
- ◆大阪府
40 伊勢寺 様
69 永興寺 様
98 吉祥院 様
107 實相院 様
- ◆兵庫県1
209 菩提寺 様
287 向榮寺 様
- ◆岡山県
28 洞松寺 様
- ◆広島県
1 国泰寺 様
27 清光寺 様
46 双照院 様
106 信光寺 様
133 少林寺 様
- ◆山口県
25 弘濟寺 様
190 亨徳寺 様
- ◆鳥取県
32 吉成寺 様
58 正壽寺 様
82 吉祥院 様
139 養光院 様
146 妙樂寺 様
151 安国寺 様
170 大安寺 様
- ◆島根県2
36 舜叟寺 様
63 龍覚寺 様
70 完全寺 様
144 福知寺 様
157 慶用寺 様
187 養善寺 様
196 高禪寺 様
- ◆愛媛県
146 興雲寺 様
- ◆福岡県
5 妙徳寺 様
25 南林寺 様
28 桂木寺 様
- ◆長崎県1
42 西方寺 様
- ◆佐賀県
101 永林寺 様
193 慈恩寺 様
- ◆熊本県2
79 向陽寺 様
122 國照寺 様
- ◆宮崎県
35 法泉寺 様
- ◆鹿児島・沖縄県
2 龍光寺 様
- ◆長野県1
65 柳原寺 様
243 廣徳寺 様
322 守芳院 様
- ◆長野県2
491 龍勝寺 様
533 関昌寺 様
595 檢校庵 様
- ◆福井県
196 空印寺 様
242 清福寺 様
- ◆石川県
62 泉龍寺 様
75 大覚寺 様
- ◆新潟県1
314 隆崇寺 様
393 曹源寺 様
496 長樂寺 様
- ◆新潟県3
562 桐盛院 様
- ◆新潟県4
9 東陽寺 様
117 釈尊寺 様
196 香傳寺 様
817 日照寺 様
- ◆福島県
79 西松寺 様
90 明光寺 様
99 茂林寺 様
101 成林寺 様
110 龍徳寺 様
121 長泉寺 様
226 常隆寺 様
275 性源寺 様
461 正法寺 様
- ◆宮城県
13 福聚院 様
43 玉川寺 様
69 見松寺 様
115 円竜寺 様
212 祥雲寺 様
252 福嚴寺 様
- ◆岩手県
28 聖福寺 様
54 龍岩寺 様
67 永昌寺 様
124 西光寺 様
133 大林寺 様
166 寶泉寺 様
185 長泉寺 様
186 大光寺 様
303 千手寺 様
- ◆青森県
11 京徳寺 様
17 普門院 様
45 全龍寺 様
74 浮木寺 様
100 澄月寺 様
180 中央院 様
183 大乘寺 様
- ◆山形県1
229 瀧心寺 様
238 西来院 様
- ◆山形県2
393 館山寺 様
417 繁應院 様
- ◆山形県3
468 宗傳寺 様
641 宝泉寺 様
671 海禪寺 様
734 東光寺 様
737 長秀寺 様
- ◆秋田県
10 歎喜寺 様
17 補陀寺 様
27 永源寺 様
49 乗江院 様
76 藏堅寺 様
220 雲巖寺 様
253 萬松寺 様
261 見性寺 様
279 宝昌寺 様
321 鏡得寺 様
- ◆北海道1
29 法幢寺 様
69 大林寺 様
78 正林寺 様
488 清泉寺 様
- ◆北海道2
241 孝徳寺 様
248 總泉寺 様
324 崇賢寺 様
- ◆北海道3
曹洞宗北海道第2宗務所第2教区青年部 様
曹洞宗北海道第2宗務所第4教区 様
曹洞宗北海道第2宗務所第5教区青年会一心会 様
曹洞宗北海道第2宗務所第6教区空知青年会 様
- ◆北海道4
曹洞宗北海道第3宗務所第2教区禅林会 様
曹洞宗北海道第3宗務所第3教区道心会 様
143 海音寺 様

ボランティア基金感謝録

2024年1月1日～2024年3月31日取扱い分

- ◆大阪府
大阪有道会 様
- ◆山梨県
213 方外院 様
- ◆長崎県1
55 瑞雲寺 様
- ◆島根県1
石見曹洞宗青年会 様
- ◆秋田県
曹洞宗秋田県第9教区法友会 様
- ◆北海道1
曹洞宗北海道第1宗務所第2教区道友会 様
曹洞宗北海道第1宗務所第5教区青年会 様
曹洞宗北海道第1宗務所第7教区青年会北斗会 様
札幌禅林青年会 様
- ◆北海道2
曹洞宗北海道第2宗務所第2教区青年部 様
曹洞宗北海道第2宗務所第4教区 様
曹洞宗北海道第2宗務所第5教区青年会一心会 様
曹洞宗北海道第2宗務所第6教区空知青年会 様
- ◆北海道3
曹洞宗北海道第3宗務所第2教区禅林会 様
曹洞宗北海道第3宗務所第3教区道心会 様
143 海音寺 様

インターネット受付分

- ◆秋田県
265 倫勝寺 様
- ◆新潟県1
394 常安寺 様
- ◆島根県2
199 妙樂寺 様
- ◆高知・香川県
13 願成寺 様





全国曹洞宗青年会創立50周年記念事業 「両大本山報恩拝登」

大本山永平寺「僧堂坐禅」「全曹青創立50周年報恩諷経」 「世界平和大施食諷経」ご随喜のご案内



全国曹洞宗青年会も第25期の任期となり、創立50周年の節目を迎えることとなりました。国内海外問わず幅広く活動を続けてこられましたのも、ひとえに先輩諸老師・会員諸師の皆様のお力のお賜物と感謝の念に堪えませ

ん。
 この50周年を記念して行う事業の一つとして、原点に立ち返る機会と考え「両大本山報恩拝登」を企画しております。

昨年の大本山總持寺拝登に続いて、本年は大本山永平寺に拝登いたします。

参集の青年会員で僧堂内単にて坐禅をさせていただいた後、全曹青会長導師のもと法堂にて「全曹青創立50周年報恩諷経」「世界平和大施食諷経」を厳修いたします。また、令和6年度臨時評議員会を併催いたします。

ご多忙とは存じますが下記の日程で開催いたしますので、全国の想いを集めた諷経にさせていただきたく、ご参集くださいますよう、お願い申し上げます。

記

日時 令和6年11月21日(木)

僧堂にて 「坐禅一炷」

法堂にて 「全曹青創立50周年報恩諷経」

引き続き 「世界平和大施食諷経」

場所 大本山永平寺

以上

※申込・詳細に関しましては、改めて各青年会様にご案内させていただきます。

このたびの石川県能登半島を震源とする大規模な地震により、お亡くなりになられた方々に謹んでお悔やみを申し上げますとともに、被災されました皆様に心からお見舞い申し上げます。一日も早く日常生活の復旧が実現されますことを、心よりご祈念申し上げます。

今号の特集記事として掲載しましたように、全国曹洞宗青年会と曹洞宗石川県青年会は協働して、避難者の支援や瓦礫の片付けなどの活動を行っております。つきましては、誠に恐縮ではございますが、本支援活動にご協力を賜りますようお願い申し上げます。

活動支援金受入口座

曹洞宗石川県青年会 宛

振替口座

ゆうちょからの場合 00730-2-70037

※ゆうちょ以外からの場合 当座 ○七九店 70037

全国曹洞宗青年会ボランティア基金 宛

振替口座

ゆうちょからの場合 00100-5-593165

※ゆうちょ以外からの場合 当座 ○一九店 593165

※ゆうちょ銀行のご利用明細書、または振替払込請求書兼受領書を領収書としてご利用ください。

表紙の話

本号の表紙では、公園の砂場に未来の可能性を表現しました。写真のように砂場に植物を植えたとしても、それが育つことはないでしょう。でもいつか、そんな常識を覆すような未来が、子どもたちの手によって実現するかもしれません。無理と諦めるのではなく、挑戦する大切さを写真にしました。

撮影地/ 広島県 西条市 撮影/50周年記念事業実行副委員長 菅悠生